

平成28年度第2回「墨田区子ども・子育て会議」・  
「学齡ワーキンググループ」議事要旨

日時：平成28年6月30日（木）午後8時00分～9時00分  
会場：すみだリバーサイドホール イベントホール

次 第

1 開会

2 議題

議 題	資料
(1) 第四吾嬬小学校の放課後子ども教室見学の報告について	
(2) 放課後子ども教室及び学童クラブの現地訪問について	

3 閉会

配布資料

なし

出席者(敬称略)

委員

野原 健治（興望館館長）

服部 榮（社会福祉法人雲柱社理事長）

押田 剛（主任児童委員）

小菅 崇行（小菅株式会社代表取締役会長）

島村 博（菊川小学校長）

松井 隆（寺島中学校長）

< 欠席委員 >

相澤 しのぶ（立花吾嬬の森小学校 PTA 会長）

佐瀬 一夫（中学校 PTA 連合会会長）

森 八一（青少年育成委員会連絡協議会副会長）

中村 信幸（連合墨田地区協議会議長）

熱田 美帆（公募） 同日実施の評価指標検証ワーキンググループに出席

< 傍聴 >

なし

部課長出席者

後藤 隆宏（教育員会事務局次長）、石井 秀和（子ども・子育て支援担当部長）、岡本 香織（生涯学習課長）、杉崎 和洋（子ども課長）、高橋 義之（待機児童対策担当副参事）

事務局出席者（検討チーム含む）

柿畑、藤井

事務局（株名豊）

千葉

## 1 開会

委員	（開催の趣旨及び検討内容等説明）
----	------------------

## 2 議題

(1) 第四吾孺小学校の放課後子ども教室見学の報告について

(2) 放課後子ども教室及び学童クラブの現地訪問について

委員	<p>現場訪問をして、問題認識を深めるということで、6月22日に集まれる人だけで訪問させていただきました。学齢部会から押田さん、それから教育員会事務局次長をはじめ生涯学習課長、文花児童館の館長、第四吾孺小学校副校長など、関係者が来られました。放課後子ども教室は年8回しか行わないのですが、6月22日の内容としては、1時間見学いたしました。四吾小学校は単学級一クラスしかなく、全校生徒180名、支援学級40名です。学童クラブが40名の中に、8名の支援学級のお子さんがおり、見守りが必要な児童が4名で12名の配慮が必要なお子さんに、職員を配置しなければならないということで、職員6名です。放課後子ども教室は年8回で、今回が2回目です。まだ、始まったばかりです。運営体系としては、コーディネーターは青少年委員の方、それから、ボランティアは町会、PTA、青少年委員、児童館、学童クラブの方です。場所は校庭で、内容はどろけい、参加者は80名です。それから、生涯学習課職員が巡回にきます。これは、私たちが訪問するからという訳ではありません。定期的に生涯学習課が取り組んでいるということがよくわかりました。指導は、レクリエーション、文花児童館の職員が行っています。訪問時に交わされた意見として、学校と学童の関係良好ということです。学校の畳27畳の教室を学童クラブで使用しています。学童クラブを週1回開催できればと考えています。夢のような話ですが、数は増やしていきたいというのが現場の声です。普段の遊び方に変化を与えるレクリエーション（集団遊び）の効果はあるということです。教室としての働きがよくわかりました。そこで学び、応用し、普段のあそび場に変化があることです。社会性と健全性とあそび場の発展に寄与できるということをおられました。それから、豊かな体験提供、特に異年齢集団の姿がみられるということです。児童館、学童クラブ、放課後子ども教室の連携がしっかりしていると思いました。そうすると、回数を増やしていくことができるのではないかと思います。</p>
----	--

	<p>放課後子ども教室は居場所としての役割よりも、豊かな社会体験、社会教育的価値が高いということです。僕は当初、居場所としての役割ということで、2、3週間に1回くらいやっても、それが居場所となるのかというような思いがあったのですが、この1回の可能性は居場所としての可能性も、社会的価値もあると思いました。それから、災害時の安全や安心というところでも、副校長先生は効果があるとおっしゃっていました。放課後子ども教室の発展型として、いきいきスクールを考えていくというのは非公式な意見です。発展性をもっているということです。これがいきいきスクールレベルまでいくことも可能ですし、区も聞く耳をもって、できるところから一つひとつやっていくというくらいの考えはあるだろうと思いました。放課後の居場所の主役としては、やはり児童館であるという区の方針があり、明確にしたいという意味では、生涯学習課の職員の方々と突っ込んで、放課後子ども教室の実態を掴めたということであります。以上、ご報告です。</p>
委員	<p>第四吾嬬小学校は、北部と南部の中間に位置します。なおかつ、四吾小学校は以前から小規模校で、単学級で構成されています。その中で、支援学級の生徒が40人おり、学童のニーズの割合も多いので、大変だったのではないかと思います。その中で今お話が少し出ましたが、学校側の協力があってこそ、この放課後子ども教室が成り立っているのかと思います。放課後子ども教室を運営する委員会の中に、元のPTA会長さんとか、そのような勢いのある方がいる限りは大丈夫だろうと思います。問題は、そのような人がいないときにどのように運営していくかです。見学したときに、元言問小学校の校長先生がボランティアでいたり、そのように何らかの形で参加していただいているので成り立っているのかなと思いました。いろいろなところを考えると少し難しいのではという気はしました。</p>
委員	<p>次長いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>8回というお話ですが、放課後の教室自体は週1回やっているのですが、そこに児童館とコラボさせていただくのが年8回ということです。児童館が入っていないので、決まった曜日だけでやっていただいているものは週3回です。平日のところに文花児童館のノウハウを入れていただいで、展開してあれだけ人が集まったということです。</p>
事務局	<p>服部先生、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>学童だけでという枠をとっばらって、全校生徒で異年齢ができるということよいと思います。毎日やるよりはフレッシュだと思います。毎日やるとなると、かなり環境を考えてやらないと大変ですね。</p>
事務局	<p>週1回放課後子ども教室があり、通常はそれで流れていって、アクセントとして8回ぐらいだと新鮮味があって良いということですか。</p>
委員	<p>放課後子ども教室も、学童プラン化しています。やはり、みんな働いていますから。流れとしてはそうなっていますね。</p>
委員	<p>放課後子ども教室の参加申し込み人数は。</p>
事務局	<p>学校で全員登録をしていただきますが、日によって来たり、来なかったりしています。</p>
委員	<p>普段の参加人数は、大体どれくらいなのか。</p>
事務局	<p>普段も同じくらいです。</p>
委員	<p>80名くらいはいるのですね。</p>
委員	<p>そのような意味では、居場所としての機能もあるということですね。そちらも整備しないとダメかと思っていたのですが、実際に見て印象が変わりました。このことについてはいかが</p>

	でしょうか。
委員	これからそのような形で広げていく予定なのですか。
委員	学童クラブと放課後子ども教室の一体化として、これはいいですか。
事務局	今回のような形であればそうなると思います。
委員	今回は先に児童館それから、うちの所のボランティアだけであるということの中で、やはり不安は残るということです。維持・発展させる上で、体制の問題はあるのではないかと思います。
事務局	子どものいる安全な場所を作ることで、ボランティアは当然休日の方が良いと思います。特にうちで実施している放課後子ども教室というのは、PTAの方を中心に、地域が学校との協力の中で実施しているということに、ひとつ大きな意味があるのではないかと思います。地域・家庭・学校の連携というのですが、事業や仕事みたいなものがないと、具体的な連携は難しいかなと思います。この事業を通じて、連携する側面もあるのかと思いました。それと共に、地域の人と子どもたちが触れ合えるということでの異年齢の交流というのが生まれるということもあるかと思っています。
委員	島村校長は今のご意見についていかがでしょうか。
委員	自分のところの学童クラブは同じ校舎にあります。ただ放課後子ども教室と一緒にというものではありません。今のお話を伺っていて、イメージを膨らませてできれば素晴らしいと感じます。
委員	近くでは、曳舟小学校にも放課後子ども教室があるということなので、一度接触してみて、今回の学びを生かせれば良いと思いました。もう1回現地、学校内にある学童クラブ、それから児童館に訪問させていただくという形にさせていただきます。一度、現状把握を学齢部会として行っていかないといけないということで、視察していただきますが、よろしいですか。訪問先、日程等のところで、ご提案はありますか。
事務局	学校内の学童クラブをご覧になるというのであれば、第一寺島小学校が良いのではないのでしょうか。
事務局	連携事業について言えば、夏休み前だと7月20日になります。
委員	7月20日の第一寺島小学校が良いと思います。
事務局	第一寺島小学校は人数が多く、低学年と高学年を分けていて、7月20日は高学年で、学童の子どもは入らないです。学童と一緒に良いのであれば、7月20日はやめた方が良いでしょう。
委員	今回は有志の方だけで良いのではないのでしょうか。特別に何かをしてくるのではなく、ただ見てくるというくらいでよいかと思います。訪問先としては学校内学童を見るということでもよろしいでしょうか。
委員	学校内学童クラブというのは、いろいろと制約があります。児童館とは違いますし、見に行く価値があると思います。
委員	よく行っているところ、それからちょっと首をかしげるようなところはないですか。
委員	今もよく行っています。学校の校長先生も学童クラブについてもよく考えていただいています。これがあることでプラスになりますし、そういったことで、おかしなことはないと思います。
委員	どこか見学とすれば、事務局で提案はありますか。何かご意見はありませんか。

委員	学校でしたら第一寺島小学校、第二寺島小学校で良いと思います。
委員	第一寺島小学校、第二寺島小学校ですね。
委員	良いと思います。
委員	個人的には、学童クラブの夏休みが見たいです。夏は大変ですよ。朝から来ていまして、これは把握しておきたいです。行くのであれば何時ごろがいいですか。
委員	一番活性化しているのは、15時ごろのおやつが終わった後で、のびのびしています。午前中はプールがあったりレクリエーションがあったりします。
委員	15時から17時くらいが良いですか。
委員	そうですね。その辺が良いと思います。
委員	夏休みを見るのであれば、8月に1回いけば良いですか。8月の何日が良いでしょうか。お盆明けくらいですか。
委員	子どもが多いのは前半か後半です。お盆過ぎですと、20日以降に戻ってきます。
委員	次回の9月の親会議までに見ておければ良いと思います。第一寺島小学校に決まれば、8月22日(月)はいかがでしょうか。集まれる人ということ。時間が15時~17時に第一寺島小学校に集合ということをお願いします。それから、児童館も訪ねたいということ。児童館は7月でどうでしょうか。7月27日か28日で。児童館に行くとしたら時間は16時から18時でよろしいですか。
委員	夏休みは16時以降ならプログラムをやっていますから割合いろいろな手段があります。
委員	もし夏休みを外すのであれば、7月11日(月)はいかがですか。来られる人だけ16時から18時ということ。児童館はどこが良いでしょうか。
事務局	この近くですと、さくら橋です。
委員	では、さくら橋でよろしいですか。これは通常の児童館ですか。
委員	学童併設の児童館の現状を見ていただけます。
委員	学童もみることができるし、中学生の利用もあるということです。居場所としての拠点中の拠点として考えている児童館を見るということです。この2つは訪問ということにさせていただきます。現地訪問の議題としてはないのですが、何か他の方法を考える機会をもてないかということで、教育の質を考えるということを去年ここで行いました。なかなか良い会でした。随分時間をかけて行いましたが、私は個人的には健全育成ということは何かを言いたいです。しかしそれは、話題が大きすぎるということで反応が芳しくない。焦点が絞られてないからかというように思います。やはり児童館や学童クラブ、放課後子ども教室の実践者のレポート、どんなプレゼンテーションを行うのか、そういう企画をしたらどうだろうかという提案も出てきています。
委員	やはり学童というものは学校や家庭とは全然違うと思います。文章で発表するのもいいですが、実際に集まって現場で起きていることを話している方が良いと思います。
委員	評価の機会がない。
委員	検証していくということです。
委員	現場にとっても質の向上になる。
委員	現場が大事です。
委員	まずは質的な評価のようなものにつながります、周知にもなりますという、シンポジウムの

	ようなものになるのではないか。
委員	そういった場を設けていったらどうかと思います。学童クラブではないので。研修会はあるのですがね。アピールをする場というものを思ったのですが。
委員	どうでしょうか。
委員	中学校としては、児童館とは情報提供ということで情報交換することはあります。先ほど待機児童がけっこういると聞いたのですが、改善や工夫、対応はどのようにするのですか。
事務局	来年の4月に向けて、2か所作る予定がありますが、100%解消という訳にはいかないと思います。
委員	今年の4月にもれた子どもは、残念ということで終わるのですか。
事務局	去年1年生2年生は入れています。3年生までは学童に入れるというしきりでやっていますので、大体入れなくなるのが3年生です。子どもの発達ということも考えるべきもので、どこまで大人の目が行き届く場所にいるのが良いのか。もちろん、保護者の中には6年生まで、大人の目が行き届くところで子どもを預かってもらいたいということもあります。それはそれで親の心配としてわかるのですが、子どもに着目したときに、子どもというのは大人の目がないところで、いろいろないざごも含めて問題解決をしていくものです。大人の目が100%あるところだけで、子どもが成長していくものかどうかということも含めて考えなければいけないと思います。
委員	そうすると、健全育成とは何なのかということになります。子どもの放課後のあり方、示し方は、全体的な把握をしないと、多様な過ごし方をしているので、そこで大人の目がどこまで入っていくのが良いのか、行政でどこまで用意するのか、その辺はまず実態からです。
委員	中学生以下で、部活も入らない、塾もいかない子どもたちの居場所がなかなかないという状況になってきています。そういった子どもたちのしっかりと支援が大事です。
委員	まだ発言されていない方に、一言ずつお話をしていただきたいと思います。現地訪問については、今のご意見も入れてさせていただき、レポートを重ねて、見えるものを学齢部会で共通認識するということが必要かと思います。今日は、全体で健全育成なのか、それとも学童クラブ、放課後子ども教室、児童館の実態レポートなどをして、併せて子どものことを考えるというようなシンポジウムなのか、レポート報告を聞いてシンポジウムを行うのか、そのような会を1月に考えていこうというところです。今日は投げかけという形で、また事務局で考えていただき、それから9月に会議が開かれますので、それが実現可能なのかどうなのかということ、そこで話せたら良いかと思います。
委員	詳しく報告をいただきまして、本当に参加させていただければよかったと残念です。実態をみないとわからないことなので、ぜひ機会があれば参加できたらと思います。
事務局	放課後関係で、国の方ではたくさんの言葉遣いをしています。学童クラブ、放課後子ども教室、放課後総合プランです。昨年の秋に皆さんで確認したのですが、国の方では平成31年度までに、放課後総合プランを全小学校区でやりなさいと言われていました。全小学校で放課後子ども教室を開き、学童クラブとの連携をする。学校内に学童クラブがあれば、放課後子ども教室の一体型をやる。学校内に学童クラブがなければ、外の学童クラブと学校内の放課後子ども教室で連携する連携型。一体型ないし連携型を平成31年度までに、全小学校で行うべきだということを言っています。我々としては、小学校区に学童クラブがない小学校3

	か所ありますので、その3か所について早急に整備をしつつ、要綱についても整備していきたいと思っています。
委員	教育委員会、生涯学習課の方での取り組みで、だいたい順当と思います。
事務局	放課後子ども教室ができていない学校が8校あります。そこにできるだけ週1回でもやっていきたいと思っています。
委員	今度も親会議が終わってから、学齢部会を開催したいと思っています。それでよろしいでしょうか。現地訪問を2回行い、終わった後でレポートと、今後に向かっての提案ができるように事務局と話をしていきます。それでは、終わらせていただきます。

次回学齢 WG 開催予定

日時：平成 28 年 10 月（親会議と同日）

以上